

令和6年度 学校関係者評価書

学校法人青い鳥学園 佐藤幼稚園 園長 山本 勘太
佐藤幼稚園学校関係者評価委員会委員長 石田 佳恵
(学校関係者評価委員 7名)

1. 本年度の重点目標
- イ. 保護者教育及び親子ふれあいを深めるための事業の充実
 - ロ. 心豊かに育む絵本の読み聞かせ、ごっこ遊び、リトミックの充実
 - ハ. 在園児及び未就園児親子への子育て支援の充実

2. 自己評価結果に対する学校関係者評価
- * A (十分に成果があった)、B (成果があった)、C (少しの成果があった)、D (成果がなかった)

(教諭 11名)

評価対象	評価項目	具体的取組	自己評価				園としての改善策	学校評価				学校関係者評価委員の意見
			A	B	C	D		A	B	C	D	
A. 本年度の重点目標・活動	1.保護者教育及び親子ふれあいを深めるための事業の充実	1.年少児は秋に親子遠足を実施。年中児・年長児は秋に親子レクリエーションを実施。その他、全学年、保護者参加型運動会を実施。又、当園の野外施設で、在卒園児親子を対象としたミニイベントを実施したり、野外施設開放デーを実施した。それに加えて、年長児は、3学期に親子もちつき大会を実施した	0	7	2	0	1.今年度は昨年度までのコロナ禍とは違い、落ち着いたスタートをきることができた。コロナ禍の3年間の経験を活かし、実施方法や内容を検討し、親子でレクリエーション、及び親子遠足を楽しんで頂けるよう考え、実施できた。例年同様、園児や保護者の方には楽しんで頂けたのではないかなと思う 次年度以降もこの3年間の経験を活かし、実施方法や内容を精査しながら、親子で楽しんで頂ける活動を少しでも多く取り入れていきたいと思うと同時に、ここ数年、親子のふれ合い遊びの機会をもつことができていなかったのも、親子でのふれあいの遊びの機会を増やしていけたらと思う	6	1	0	0	1.今年度は昨年度までとは違い、落ち着いたスタートが切れたようで良かった。ただ、共働き家庭が増えたようで、行事の実施も依然と同様に行うのも難しくなっているとのことなので、行事のあり方や実施方法、内容を再検討して、次年度以降も変わらず親子で楽しめる活動を実施して欲しいと思う
	2.心豊かに育む絵本の読み聞かせ ごっこ遊び・リトミックの充実	2.年間を通して、各クラスで季節や子ども達の興味関心を考慮しながら、可能な限り、毎日、帰りの時間に絵本の読み聞かせを行った。又、毎週1回クラス文庫の日を設け、各家庭に絵本を持ち帰ってもらい、親子で絵本に親しんでもらう取り組みをした 今年度も各学年、子ども達がより意欲的に活動に取り組めるよう、ごっこ遊びを取り入れた保育の柱とし、園児と楽しい活動を行なうことができた。リトミックもかなり定着してきたので、年間計画に教育の柱としてしっかりと取り入れ、各学年、子ども達と楽しむことができた	5	4	0	0	2.絵本の読み聞かせは、当園が大切にしていることの1つであり、例年通り、お帰りの時間等に子ども達がゆったりとした時間を過ごせるよう行なった。又、例年通り、各学年、ごっこ遊びを楽しんだ。加えて、リトミックにより力を入れて、案を工夫し、実践できたのではないかなと思う。次年度も楽しんで行ってきたい	7	0	0	0	2.以前から大切にしてきた絵本の読み聞かせやごっこ遊びはもちろんのこと、ここ数年で定着してきたリトミックにもより力を入れているようで、又、子ども達も毎回リトミックの時間を楽しみにしてくれており、いい活動になっているようなので、今後も大切にしていって欲しいと思う
	3.在園児及び未就園児親子への子育て支援の充実	3.在卒園児向けに休日の園庭の開放、子育て相談の実施、開園日は預かり保育を実施。また月2～3回、0～3歳までの未就園児親子対象のひよこデーや、次年度入園予定の親子を対象に親子すくすく教室を実施。さらに、秋には野外施設の開放デーの実施、秋には野外施設でミニイベントも実施した	4	5	0	0	3.コロナ禍の3年間の経験を活かし、実施方法・内容等を工夫し、予定通り行えたので、この経験を活かし、次年度に繋げていきたいと思う	5	2	0	0	3.未就園児教室も以前の形での実施ができるようになり、安心して実施できたようだが、参加者が以前に比べだいぶ減っており、実施方法や内容を再検討する必要があるとのことなので、参加者等の意見も聞きながら、次年度の計画を立てて、より多くの方が参加してもらえるよう工夫して欲しいと思う また、野外施設での活動の1つとして、母親向けのイベントも開催して、楽しんでもらえているようなので今後も継続して欲しいと思う

B. 保育の計画性	1.園の理念や教育方針について、園長や教職員と話し合っている	1・2に関しては、学期前、学期終了後を始めとして、必要に応じて、職員会議の時や、研修の機会を設け、教職員全員で話し合った	7	2	0	0	1に関しては、年度開始前、日々の職員会議等で話し合いの機会は多々設けた。ただ、教職員によって理解度に差があるので、一人ひとりの教職員がしっかりと理解を深められるよう個別にも伝達・指導していきたい	5	2	0	0	教職員がしっかりと園の理念や教育方針について、深い理解を持ち、実践することが円の信頼にもつながると思うので、現在も職員会議等でしっかりと伝えているようだが、今後も園長をはじめ、教職員全員がしっかりと共通理解をもって教育にあたれるよう、話し合いの場を設け、園の方針や理念についての相互理解を深めていってほしいと思う
	2.園の教育課程を理解し、子どもの実態・地域性を考慮し、保育計画を立てている		4	4	1	0	2・3に関しては、毎年、年度初めに年間カリキュラムを作成し、月単位、週単位と確認の上、実践・反省・評価するよう努めている。ただ、まだ保育計画への理解に個人差がみられるので、一人ひとりの教職員がしっかりと理解できるよう、今後も伝達・指導を徹底していきたい	5	2	0	0	
	3.保育計画と実践の評価・反省を行い、次に活かせるように心掛けている	3に関しては其時、必要に応じて職員会議等で話し合いの場を設けた	5	4	0	0		5	2	0	0	
C. 研修と研究	1.研修会や研究会に意欲的に参加している	1.リモートで参加できる研修が増えたこともあり、リモート研修を含め、対面で参加できる研修会には、可能な限り参加した	0	9	0	0	1 今年度は、リモート研修を含め、研修会に参加することができ、それを園の活動にも繋げていくことができたので良かった。次年度以降も、可能な限り、研修には積極的に参加し、資質向上に繋げていければと思う	4	3	0	0	1 については、対面での研修にも昨年に比べ参加でき、成果も感じられたようなので、次年度以降もできるだけ参加し、子ども達に還元して欲しいと思う 2.園内研修では基本的な事項について改めて力を入れて研修を行い、成果もそれなりに感じられたようなので、次年度以降も様々な分野において、しっかりと研修の機会を設け、子ども達に還元して欲しいと思う 3・4 に関して、教材・教具についての知識の獲得や技能の習得については、個々の教諭によって少し差がみられるとのことなので、その必要性も含め、管理職を中心として、助言・指導を徹底して欲しいと思う。又、個々での学びだけでなく教職員全体で学べる機会をできるだけ可能な限り設けて欲しいと思う
	2.園内研修を積極的に行っている	2.今年度は、若い教諭の子どもの発達への理解、幼児教育・保育への理解をより深めるための園内研修に力を注いだ。又、持っている技術を生かすための方法についてもより深まるよう資料等を用いた園内研修を行った	0	9	0	0	2 園内研修に関しては、今年度は子どもの発達への理解、幼児教育への理解に重点をおき取り組み、まだ十分ではないが、ある程度成果を感じることができた。ただ、教職員によって差があるので、共通理解を持って教育活動を行えるよう指導・援助していきたい	5	2	0	0	
	3.教材・教具について知識を得たり、様々な活用方法を研究している	又、教育活動の準備（リハーサル）を大切にし、しっかりと援助、指導のポイントをおさえて実践できるよう指導にあたった	4	5	0	0	3・4 に関しては、今年度は基本的な事項についての理解を深めるため、管理職等の指導や助言をもとに学ぶというだけでなく教職員一人ひとりが自ら学ぶ大切さを伝え、自ら学ぶ体制作りを心掛けた。まだ十分ではないが少しその成果を感じられので、次年度もこの姿勢を大切にしていきたい	5	2	0	0	
	4.保育に必要な知識の獲得や、技能の習得を積極的に行っている	3・4 に関しても、基本的な事柄についての理解をより深めるため、話し合いの機会を多く持ち、一人ひとりの教職員がしっかりと知識や技能を習得し、教育活動へ繋げていけるよう、また、教師としても成長できるよう、研修の機会を多く設けた	4	5	0	0		5	2	0	0	
D. 保育のあり方・子どもへの対応	1.一人ひとりの子どもとの関係がしっかりと築けている	1～3 に関しては、今年度も各教師が、家庭から提出される個別表、前年度の担任の話、連絡帳、個別面談、保育日誌、日々の保育活動等を通して、1年間を通して、1人ひとりの園児を理解し、信頼関係を築けるような様々なことを取り組んだ。支援を必要とする子の保育・対応や、保護者教育についても勉強会に力を入れた	5	4	0	0	1～4 各項目に関しては、職員会議等で日々確認しながら行ってきたが、こども一人ひとりとの関係、クラス作りにも個々で理解の差、意識の差がでてしまったので、教師間によって極端な違いや差が出ないよう、個人的に具体的な指導を実施し、話し合いの場をできるだけ設けた。只、前年度同様、支援が必要な園児も増えてきているので、保護者対応も含め、しっかりと対応できるように体制作りを心掛けていきたい	5	2	0	0	1.2.3 毎年思うが、温かい優しいかわりを大切に、子ども一人一人の思いをくみ取り、援助・指導して下さる先生方の姿に、安心して子どもを預けられると感じている 4.ここ数年、コロナ禍だったということもあり、今まで以上に健康や安全に配慮されたことがお話から伝わったが、その経験を今後の園運営・教育活動にぜひ生かして欲しいと思う
	2.一人ひとりの子どもの興味・関心事及び友達関係をしっかりと把握している	4 に関しても、例年通り、個別表、連絡帳等で、個々の園児が持つ病気、食物アレルギー、対処法等について、共通理解できるよう機会を設けた。また、怪我やトラブルへの対応についても、職員会議等を通して、教職員間で対応をしっかりと統一するよう、何度も話し合いの場を設けた	5	4	0	0		5	2	0	0	
	3.一人ひとりの子どもの発達についての理解が十分にできている		5	4	0	0		5	2	0	0	
	4.健康と安全についての配慮ができています		6	3	0	0		5	2	0	0	
	1.クラス経営がスムーズに行われている	1.各担任が、各クラスの子どもの良い所を伸ばし、子ども達 1 人ひとりが生き生きと遊べるよう、日々の保育に創意工夫を心掛けるよう援助し、実践した。また、管理職を始めとして、園全体としても活気溢れる魅力のある園でい	6	3	0	0	1.個別面談、連絡帳、お手紙等で、保護者の皆さんからは多くの感謝のお言葉等を頂いた。次年度もしっかりとクラス運営が行えるよう、援助・指導してい	4	3	0	0	子ども達が自分の思いや考えを素直に表現できていることがクラス参観からどのクラスでも感じられて嬉しく思った。それは、毎日の職員会議をはじめ、

E. 幼稚園運営	2.園長・主任等管理職の教師との関係は円滑にしている	られる環境設定（物的・人的）に取り組んだ 2.例年通り、管理職（園長・主任等）やベテラン教諭ができる限り相談、指導の場を設け、話し合いを重ね、関係作りを心掛けた 3.各教諭が自身のことだけでなく、学年・園全体として共通理解が持てるよう、また、しっかりと協力・連携体制が築けるよう、毎日の職員会議等、話し合いの場を多く設け、指導にあたった	4	5	0	0	きたい 2・3共に、例年同様、日々の職員会議だけではなく、その都度、必要に応じて話し合いの機会を設けたので、ある程度、成果を感じることができた。ただ、捉え方の違いも多少あったので、伝え方等も工夫し、より理解が深まるよう改善していきたい	5	2	0	0	様々な場面で、必要に応じてコミュニケーションを積極的にとっていることによるのだと、お話を聞いて感じた。 園全体の在り方は、本当に子どもサイドに立って、子ども達が楽しめるよう創意工夫されているのが感じられた。 今後子どもや保護者の皆さんにとっても安心できる場所であり続けて欲しいと思う
	3.同僚の教師との協力・連携がしっかりとされている		4	5	0	0		5	2	0	0	
F. 保護者への対応	1.園や家庭での子どもの様子について、電話・連絡帳等でしっかりと伝え合っている	1.連絡帳、電話、クラス便り、手紙、又、送迎時に直接口頭でなど、様々な方法で、できる限り伝えあった 2.各教諭には、常に報告・連絡・相談を心掛けることを指導しており、保護者対応に必要な事柄が生じた場合は直ぐに園長・主任等にも報告し、話し合いを行い、必要に応じて、園長・副園長・主任等が保護者面談を行ったり、改善すべき所はすぐに対応するよう取り組んだ	6	3	0	0	日頃より、教職員に一人ひとりに丁寧かつ細やかに対応するよう指導・助言を心掛けているので、多くの場面でしっかりと伝達や対応ができているが、一部、経験が浅い若い教師もいて、不十分な面も見られるので、今後、言葉遣いや伝え方等の指導をより徹底していきたいと思う。又、園としての考え方をしっかりと教職員間で共有し、保護者とのやりとりがスムーズに行われるよう心掛けていきたい	5	2	0	0	保護者からの質問や相談等、またその日にあった子どもの様子など、細かなことも毎日打ち合わせで共有されているとお聞きした。又、担任でない教諭にお話ししても理解が得られ、どの教諭にも対応してもらえることが安心できると感じた。ただ、ごく稀ではあるが、個々の判断で対応してしまったケースもあるようなので、次年度以降は報告・連絡・相談を徹底して欲しいと思う
	2.保護者からの相談・クレーム等を、園長、主任等に報告・相談し、対応している		6	3	0	0		4	3	0	0	
G. 地域の幼児教育センターとしての役割	1.園に対する様々な問い合わせ等についてきちんと対応している	1.未就園児の活動や次年度の入園に関する問い合わせや、地域からの園行事に関する問い合わせ等にしっかりと丁寧に対応するよう心掛けた	5	4	0	0	1.基本的には園として、共通の理解を持ち、対応に差が出ないよう、職員会議等でしっかりと話し合いの場を設けている。ただ、現状は個々に対応の差があると感じる面もあるので、今後はそれぞれの教職員がしっかりと対応できるようにしていきたい 2.今後は地域の園としての役割を果たしていけるよう、在園児だけでなく、未就園児、地域の方に対しても、できる限り開放的な園でありたい 3.例年通り、年度開始前や職員会議、園外保育時に、教職員へ伝える機会を設けて活動したので、成果を感じることができた。ただ、理解度に個人差がみられたので、今後は個々に丁寧に伝えていきたい 4.今年度から長期休業中の春季預かり保育も開始し、保護者のニーズもそれなりにあったため、次年度以降も春期預かり保育だけでなく、預かり保育の実施方法も再検討し、少しでも保護者のニーズに対応できるようにしていきたい	5	2	0	0	1.保護者や他の問い合わせについては、担当の先生が中心に対応されているとお聞きしたが、他の先生方とも共有し、今後は丁寧に対応をしていって欲しい 2.園庭開放や未就園児教室等は以前のように行う形に戻せたとのことで良かったと思う。今後は開放的な園であって欲しい 3.ここ数年、コロナ禍だったこともあり、園外に出る機会がだいぶ減っていたので、特に若い教諭の理解が浅いということを開いた。次年度以降は以前のように積極的に園外へも出たいとのことなので、皆の理解が深まるよう話し合いの場を設けたり、直接訪問して理解が深まるよう心掛けて欲しい 4.共働きの家庭も増えてきたこともあり、長期休業中の春期預かり保育も始めて、それなりにニーズがあったようなので、今後もあまり子ども達に負担のかからない程度に、保護者のニーズに応えていって欲しいと思う
	2.地域の人たちや未就園児に対して、園庭等を開放したり、子育て相談に応じている	2.今年度はコロナ禍前の実施内容・方法に戻し、月に2〜3回、0〜3歳までの未就園児親子対象のひよこデーや、次年度入園予定の親子を対象に親子すくすく教室を実施した	5	1	3	0		3	4	0	0	
	3.子どもの教育のために利用したい地域の自然環境や施設、機関について理解している	3.例年通り、よく利用する、また、利用する可能性がある場所については事前に出向き、利用方法、安全面等について、常に下調べを行うよう心掛けた	4	3	2	0		4	3	0	0	
	4.預かり保育を実施している	4. 通常日の預かり保育、長期休業中の預かり保育を実施した。そして、今年度から長期休業中・春季預かり保育の実施を始めた	7	2	0	0		7	0	0	0	
H. 自己評価システム	1.教師1人ひとりがしっかりと自己評価している	1.各学期末・学年末に自己評価表を用いて自己評価を実施した 2.各学期、自己評価をもとに、職員会議等で園として、また一教師としての問題点について話し合い、改善策を検討し、次学期の保育活動に活かすよう心掛けた	2	5	2	0	自己評価と併せて、客観的な評価もしっかりと取り入れて、今後もより質の高い教育活動ができるように、また一教師、人としても成長していけるよう話し合いの場をしっかりと設け、改善点を次年度に活かせるようにしていきたい	7	0	0	0	保育準備や毎日の保育に関して、失敗や反省等を今後に活かすために、しっかりと振り返り話し合うことを大切にされているとお聞きした。今後は自己評価も含め、今の姿勢を大切にして欲しいと思う
	2.自己評価に対し、園として問題点を把握し、その改善に対処している		2	5	2	0		7	0	0	0	
I. 外部アンケート	1.保護者へのアンケートをしっかりと実施している	1.年度末に幼稚園及び教職員、子どもに関するアンケートを実施した	0	9	0	0	今後の園運営の課題を知ることができるよい機会なので、頂いたお声を真摯に受け止め、次年度以降の園運営・教育活動等に活かしていきたい。又、保護者の方からの質問にも、丁寧に説明を心掛けていきたい	7	0	0	0	今年度はコロナ禍があけ、落ち着いたスタートをきれたようであった。次年度以降、以前と同じように教育活動がどこまでできるかわからないが、以前から大切にしてきた園の教育をできるだけ継続していって欲しいと思う
	2.保護者へのアンケート結果をしっかりと受け止め、課題に対し善処している	2.アンケート結果を真摯に受け止め、改善点については改善策を考えた	0	9	0	0		7	0	0	0	